

いしや先生

▶19

あべ 美佳

町おこし映画顛末記

風がすっかり秋の匂いになってしまっただけで、今年中に夏のシーンを撮る予定なので、スタッフ一同、フル稼働である。8月もご報告したとおり、へき地医療に尽力した女医・志田周子(あきのこ)の生涯を描く映画「いしや先生」が、克蘭クインに向けて本格的に動きだした。

オール山形ロケで撮影される今作は、本拠地・西川町を中心に、大江町、白鷹町、山形市、尾花沢市、長井市、上山市、鶴岡市…などなど、県内全域を巻き込んだりという作品になる。ご支援の輪もいっそう膨らみ、感謝があふれる。皆さま、ありがとさまです！

先日行われた衣装づくりワークショップでのこと。婦人会を中心にしたボランティアメンバーが集まり、



当てているの手がけた衣装が、映像作品として世界中の人の目に映り、半永久的に残るのだ。私も昔、農家のドラマを見ながら、俳優さんがほっぺに泥つけて演技をしていると「こだな、ウソだ！うちの父ちゃんも泥なんかつけでね！」とテレビに向かって叫んだものだ。映像上の分かって、出演者オーディションも開催された。書類選考で残った50人の方々が、ミニ台本片手に思いっきりアピールしてくださった。いや、あ、すこかったぞです。わが故郷には、面白いキャラクターがいっぱいいるのだと感心する。実は私もオーディションの審査員ができることを楽しみにしていたのだが、寸前で審査員を辞退させてもらった。んだって、書類選考を通った方々のプロフィールを拝見したら、あまりに知人が多くてよ。方が一「あのヘナコ、オレば落どした」と恨まれてもやんだので、キャスティングは監督にお任せすることにしました。

さて皆さん。最終のオーディションが、もう1回あぶり出す！なんと今度は、

こんな酷い服着てないわ

一通りの説明を終え、では早速来週から作業に入ろうということになる。何かて生活していました。…人間は？とお尋ねしたと質問は？とのお尋ねしたと。…お母さん方が憤慨(?)

りやすい演出、ということなのだろうが、やっぱり人たちとしては、ちよっとな嫌な思いもあるのかもしれない。

——んでもよ、こはいい、ちよ、そいつのうち全部面白がって、昭和のコスプレだと思って、楽しんでも

山形と東京で同時開催です。いったい何人集まるかなあ。一つの村の物語なので、赤ちゃんからじんちゃん、ばんちゃんまで、幅広くキャストが必要です。演技経験者である必要もありません。締め切りは15日。

皆さん、奮って応募ください(詳細はホームページをご覧ください)。

あれはいつだったか…この町おこし映画プロジェクトに関わる少し前のこと。西川町の中学生の前で講演をさせてもらったことがある。質問タイムに、一人の少年の手が挙がった。

「僕は将来、俳優になりたいんです。どうやって俳優になれますか?」。私は「今も、その少年の名前を覚えていない。キラキラした目で、ほぼ坊主頭のめんこい少年だった。少年よ、今、どこで何してますか?」

映画の現場で、また会えたいわねえ!

(脚本家・作家、尾花沢市出身)

11月1回掲載します